

島間の風

平成29年6月30日

南種子町立島間小学校

第 8 号



子供はほめられたい(大人も?)

校長 永留良隆

6月13日(火)の給食時間の放送で、子供たちの「善行」を紹介しました。これは昨年度から学期に1回、子供たちの「善い行い」を全ての先生方に挙げてもらい、そのうちのいくつかを全校朝会等で全児童の前で紹介するものです。その時間に紹介できなかった分は、各学級で朝の会・帰りの会等を利用して担任の先生に紹介してもらっています。

当日の給食放送による善行紹介が終わって、5校時に2年生S君がニコニコしながら、「校長先生、これだけ草を取りました。」と見せに来てくれました。S君の小さな手には、根こそぎ取った草があふれんばかり握られていました。しばらくして、下校時間になり靴箱にいた1年生が、「ぼくも〇〇をして、いいことをしました。」と口を尖らせて猛アピールしてきました。子供たちは口には出しませんが、「校長先生、ぼくの善行も紹介してほしい！」という気持ちが伝わってきました。子供って本当に純ですね。

「ほめられたい人に、ほめられたいことを、ほめられたい時に、具体的にほめてもらいたい」・・・これは子供も大人も一緒だと思います。私は妻が料理を作るとすこぶる「今日の〇〇は、おいしい。味付けがいいね。」とほめます。新しい洋服を買ったときは「素敵な洋服だね。」、髪型を変えたときは「イメージチェンジしていいんじゃない。」と言うように心がけています。(これが夫婦円満の秘訣?)

さて、私が小学生の時、テストで悪い点数を取って申し訳なさそうにそのテストを差し出したとき、父が「今日のテストは難しいね。でも難しいのによく出来たが!」と言ってくれたことがあります。ガミガミ叱られるのだらうと思っていたのに、全くの想定外でした。まさしく私(子供)の意表を突いてにっこりとほめてくれたのです。その時に「よし、次は父にもっとほめられるようにがんばるぞ。」と思ったのを覚えています。ただ、親が子供をほめることは、私自身子育てを終えて感じるのですが、分かっているにもかかわらず難しいというのが実感です。でも、敢えて書きます。「叱って、親としての責任を果たした」と自己満足するのではなく、ほめて子供のやる気を引き出しませう。難しいですがとても大切なことです。もちろん、叱ることが悪いということではありません。命に関わるような行為、非人道的な行為には毅然と大人としての権威を示してください。昨年度も書きましたが・・・

『ほめることは、子供のやる気を引き出す魔法の薬』

職場体験のお礼状から

島間小で職場体験した南種子中3年生3名からお礼状が届きました。さすが中学生。3名とも3日間の学習を通して感じたこと・思ったことを素直に自分の言葉で綴ってくれました。一部分を紹介します。

- ・ 最後に別れる時に、ベランダから「〇〇兄ちゃん」「〇〇姉ちゃん」と名前でも呼んでもらい、「バイバイ」と言われた時、涙が出そうになりました。本当にとてもいい子達ばかりでした。
- ・ 働くことの厳しさや喜びも強く感じる事が出来ました。将来、教師として働くことを希望する私にとって、この体験は貴重なもので多くのことを学ぶことが出来ました。
- ・ 学習の準備、子供たちが楽しく過ごすことのできる空気を作るという「先生」という立場になってみないと分からない「見えない仕事」を多く学び体験することが出来ました。

3人の中学生の作文を読んで、何かこちらが恥ずかしい気持ちになるとともに、胸が熱くなってきました。今、キャリア教育の重要性が小学校でも叫ばれています。私達大人がしっかりと仕事に真摯に向き合うことこそ大切なことだと強く感じました。中学生から大切なことを教えてもらった気がします。

校内読書旬間(本も友達期間)

6月12日(月)～6月25日(日)までを校内読書期間として取り組みました。「学年交流読書」「図書委員による読み聞かせ」「家庭での20分読書」「職員交替の読み聞かせ」「親子読書」の他、期間中は一人2冊の貸出も行いました。

【久保教諭による3・4年読み聞かせ】

スポーツにはスポーツでしか味わえない感動があります。読書には読書することでしか味わえない感動があります。小学校の時期に、是非とも本に夢中になる時期を体験して



ほしいと思います。そして、図書室に足繁く通っている子供も、先生から読みなさいと言われてしぶしぶ(?)来た子供も、たまたま気が向いたから来た子供も、この島間小の図書室で是非、心揺さぶる1冊、人生の糧となる1冊に出会ってほしいと心から願っています。

ノーメディアチャレンジ週間・パワーアップ週間

7月3日(月)～9日(日)は標記の週間です。子供たちがこの機会に学習習慣を身に付けることができるよう、御協力をお願いします。

